

エーッ!! 国保料また値上げ?

来年度の国保料一人平均
26,000円
の値上げ案

日本共産党市議
団は保険料引き
下げに全力をつ
くします



「高すぎる保険料を引き下げ、暮らしを守れ」と市民の皆さんと力を合わせ、議会では、予算の組み換え提案も行い、論戦と運動を続けています。

日本共産党市議会議員団は、毎年国保料の引き下げを求め、議会質問、市長への申し入れ、署名運動等に取り組んでいます



市政新報 国保特集号

発行 日本共産党静岡市議団
静岡市葵区追手町 5-1
TEL: 054-254-2111 (内線 4541)
FAX: 054-272-4695
2011年12月発行 No.46

11月17日の国保運営協議会で市は、H23は8億5千万の赤字、そのためH24年度は総額33億円の負担増となる値上げ案の試算を示しました。
所得300万円3人暮らしで14万円の値上げです。

とんでもない 国保運営協議会の 値上げ案

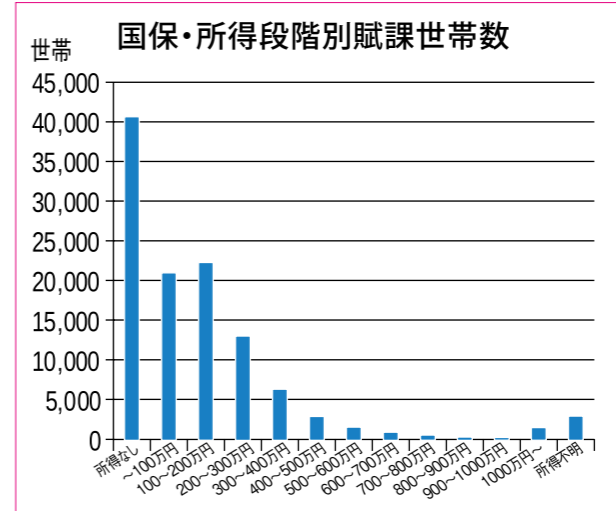
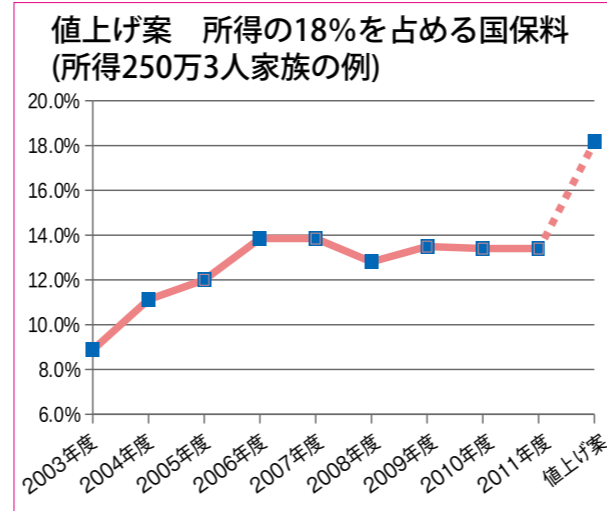
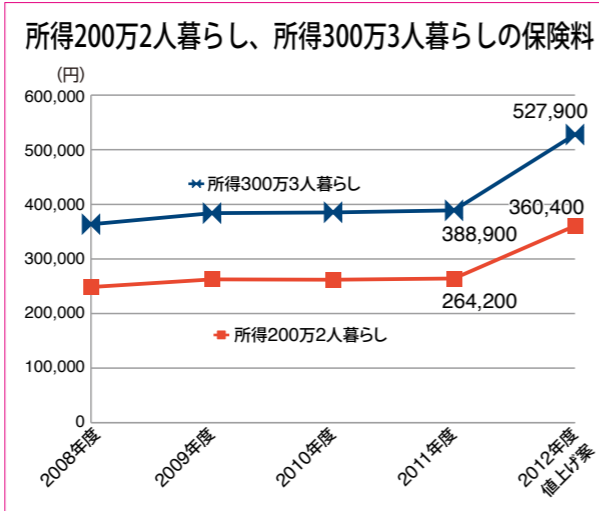
市民の声は「国保料が重い」9割、「収入に応じた額ではない」7割、「これ以上払えない」が圧倒的です。(H22市民団体アンケートより)
毎年値上げを繰り返す高い保険料により、滞納は「4世帯に1世帯」へ広がり、払ったら暮らせません。

国保料を払ったら 暮らせない!

国保の加入世帯は、自営業者、年金生活世帯に加え、不景気による失業者も増えています。このうち所得300万円以下世帯は84%を占めています。

国保加入世帯の 8割が所得300 万円以下

高すぎる国保料が暮らしを圧迫し、滞納世帯は、4世帯に1世帯へと広がっています。毎年の国保料の値上げにより、滞納者増、収納率低下、保険料値上げの悪循環から抜け出せなくなっています。なのに、大幅値上げ案が…。



市民の声③
生活に見合った国保料に
高い国保料を支払うために受診を控えたり市販されている薬で様子を見ています。早めにも受診できなくて重病になったこともあります。生活に見合った国保料にすることを願っています。
葵区 (男性)

市民の声②
毎年値上げでは生きていきません
年金を受け取りびっくりしました。また減っていました。税金、介護保険料も遠慮なく引かれています。毎年値上げでは生きていきません。せめて国保料だけは値下げしてほしい。年金生活者の願いは切実です。
駿河区 (女性)

市民の声①
重すぎる国保料、何とかしてもらいたい
長引く不況によって、中小零細業者は明日をも知れない営業と生活を強いられています。特に、赤字でも支払わなければならない国保料と消費税は私たちを大いに苦しめています。
国保料滞納世帯は四世帯に一世帯にまで拡大しており、制度そのものの存続も危ういのではないのでしょうか。せめて加入者一人当たり1万円の値下げをしてもらいたいです。
清水区 (印刷業)



国保料一人1万円引き下げは、こうして実現します

社会保障としての国保

国保は、他の公的医療保険に加入していない人すべてが加入するセーフティネットです。国保法に「社会保障及び国民保健の向上に寄与することを目的とする」とあるように、国民が病気など困窮した場合、国や地方自治体が現金やサービスを給付して生活の安定を図るのが社会保障制度です。

市が「相互扶助」を理由に、値上げを繰り返すのは、許されません。



市民の皆さんと

力を合わせ、

実現

これまで、署名運動、市との交渉などにより実現しました。

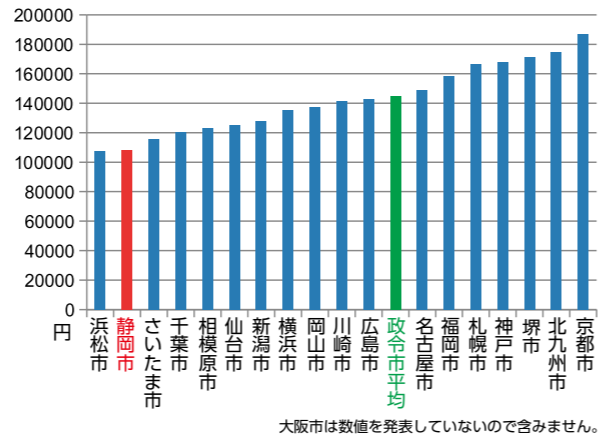
- 1 H 23 年度は一般会計からの繰り入れを 3 億円増額
- 2 減免制度の要件を所得 500 万円以下から 1000 万円以下に拡充
- 3 滞納世帯のうち、子どもへの保険証取り上げを止めさせる

提案 3

繰り入れの財源は、 くらし福祉優先に切り替えて生みだす

市民一人あたりの民生費は政令市中下から2番目。市の財政を不要不急のハコモノをやめ、暮らし福祉優先に切り替え、財源を生み出します。また、財政調整基金（残高83億円）を取り崩し、保険料引き下げの財源に活用します。

市民一人当たりの民生費比較 2010年度決算

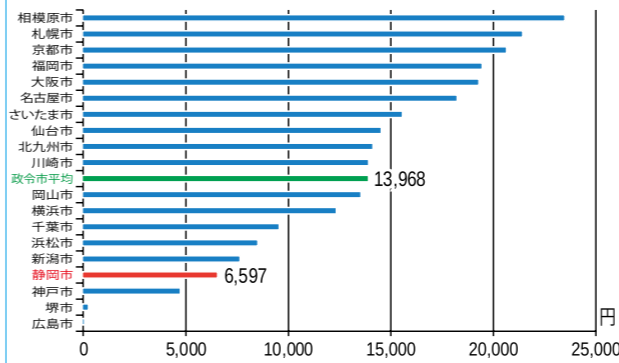


提案 2

一般会計からの繰り入れを増額させる

一般会計から繰り入れし、保険料の負担を軽減する財政支援額は、静岡市は政令市の中で下から4番目、平均の2分の1です。（2011年度予算・1人あたり平均）市は財政が厳しいと言っていますが、全世帯の4割が加入する国保世帯の暮らしと命を支えるため、増額は必要です。

一人当たりの財政支援額 2011年度当初予算

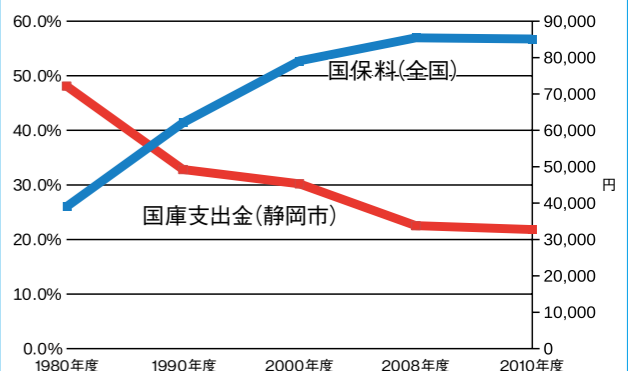


提案 1

国に国庫負担を引き上げさせる

1984年の国保法改悪により、国庫負担が医療費抑制の名で大幅に減らされました。その結果、市の国保会計総収入に占める割合は50%から22%に半減。国保財政は悪化しています。国の責任で国庫負担を元に戻させ、増額させることが必要です。

下がる国庫支出金、上がる保険料（一人当たり）



滞納世帯から保険証取り上げは止めよ

保険料が高すぎて払えない世帯からの保険証取り上げは2000世帯、短期保険証は6600世帯。保険証がなければ病気になることも、自由診療のため、高額な医療費は払えません。病気になることも医療が受けられない保険証取り上げは、今すぐ止めさせます。

滞納世帯への差し押さえは大問題！

やむなく分納している世帯は6266世帯、滞納額は56億円に膨らみ、「払ったら暮らせない」という悲鳴が上がっています。それでも差し押さえは109件（H22年度）に上り、預貯金、不動産、生命保険が押さえられました。

市民の暮らしを守ることに逆行する差し押さえは許しません。

保険料減免と窓口負担減免制度を充実させます

暮らしが厳しい世帯のため、保険料減免と医療費窓口負担の減免制度がありますが、ほとんど実績はありません。要件を緩和し、利用しやすくします。

特定健診の受診率を引き上げ、医療費を抑制する

市の特定健診の受診率は、16.6%と県内最低。受診率を引き上げ、早期発見、早期治療により、医療費を抑制します。そのためには検査項目を増やしたり、自己負担金を安くする手立てが必要です。